

科 目	受 験 生 記 入 欄		(ア)	(イ)
音楽史（全専攻） 2枚のうちの / 枚目	科 専攻	声種： 楽器：	受 験 番 号	番

以下の4系列のうち、各自入学願書提出の際に選んだ系列の、各3問題中から2問題を選んで答えなさい。なお音楽文化学専攻の受験生は、4系列12問題中から自由に2問題を選んで答えること。
解答は必ず1問題ごとに別紙1枚（800字、横書き）を用い、冒頭の二マスに選択した問題の記号（A1,B2,C3 など）を明記すること。

- ◎声乐を中心とする音楽史
- A1 18世紀から19世紀にかけてのオペラ・コミックのジャンル概念の変遷について、作品例を挙げながら説明しなさい。
- A2 リートの歴史において民謡が果たした役割について述べなさい。
- A3 以下から五つを選び、説明しなさい。

(1) イソリズム・モテット (2) フロットラ

(3) パーセル《ダイドーとイーニ阿斯》 (4) ミサ・ブレヴィス

(5) ベル・カント (6) バーンスタイン《ウェスト・サイド・ストーリー》

(7) ブルックナー《テ・デウム》 (8) トラジェディ・リリック
- ◎鍵盤を中心とする音楽史
- B1 「ノクターン（ノクチュルヌ）」というジャンルが生まれた背景について、関連する作曲家の名前を挙げつつ論じなさい。
- B2 19世紀のピアノソナタにおいてフーガが用いられている例を複数挙げ、その効果について述べなさい。
- B3 以下から四つを選び、説明しなさい。

(1) ダブル・エスケープメント (2) ドメニコ・スカラッティ

(3) オルガン・コンチェルト (4) オルドル

(5) リグティ ピアノ練習曲集第1巻 (6) セシル・テイラー

(7) 《ディアベッリ変奏曲》 (8) フォーレ《シルカローレ》
- ◎管弦打楽器を中心とする音楽史
- C1 管楽器を含む編成のために書かれた、演奏において偶然性が含まれる作品を二つ挙げ、比較しながら論じなさい。
- C2 19世紀に起こった管弦楽団の編成や管弦楽法の変化について述べなさい。
- C3 以下から三つを選び、説明しなさい。

(1)L. モーツァルト『ヴァイオリン教程』 (2) 華麗弦楽四重奏曲 quatuor brillant

(3) ベリオ《シンフォニア》 (4) イントラーダ

科 目	受 験 生 記 入 欄		(ア)	(イ)
音楽史（全専攻） 2枚のうちの2枚目	科 声種： 専攻 楽器：	受 験 番 号 番		

- (5) エクアーレ (6) コレギウム・ムジクム (7) ドビュッシー《春》
(8) ベートーヴェン ピアノ三重奏曲第5番ニ長調作品70-1

◎日本・東洋を中心とする音楽史

D1 日本・東洋の伝統音楽において、子どものために作られたレパートリーを挙げて、その特徴を説明しなさい。

D2 「家庭」は日本・東洋の音楽・芸能が演じられる主要な場のひとつです。そこで演じられる音楽・芸能の様式やレパートリーと、その担い手、家庭という場との相関性について、具体的に論じなさい。

D3 次の用語から三つを選び、説明しなさい。

- (1) 佾舞 (2) 右舞 (3) 曲舞 (4) 素踊
(5) 僧舞 (6) 雜踊 (7) 風流踊 (8) 舞囃子